



福王寺だより

ようやく春を迎えはじめ、今年はマスクも強制でなくなりそうで、日常が春の様に暖かく変わってきそうな兆しをみせて来ました。

改めて、人が出会う大切さを味わい、自分の五感を使って、直接何事も体験していききたいと思います。

ぼけと利他

「ぼけと利他」という本を読みました。介助という視点から考えさせられた一文を抜粋します。

レイナさんは、全盲なのですが、してほしいことをなるべく言わないんです。介助者と一緒に歩くと、「その人中で『してあげたいこと』が一步、歩くごとに変わるのが面白い」と彼女は言います。

先日、盲導犬と初めて東京から新潟に旅行に行ったときのことを聞きました。驚いたことに、彼女は新潟に着いてからの予定をまったく立てずに出かけているんです。かろうじてホテルはとってありましたが、観光先や食事場所は一切決めていない。まだスマホもない時代です。

現地で調べるつもりもなく、本当に風任せなんです。たまたま出会った再雇用の香

りがする新潟駅のおじさん(本人談)が教えてくれた行き先は、川沿いにある展望台でした。「全盲の私に展望台」と彼女も一度は心の中ではツツコミを入れるのですが、ちゃんとタクシーに乗って展望台に行くんですよね。

そうすると行った先の施設の人が、あわした風情で声をかけてくる。でもこの人が、彼女と関わるうちにどんどん介助が上手になっていくんです。最初はとまどった様子だったのに、弟に展望台から見えるものを話してくれるまでになる。

「ぼけ」として
いることで、彼女



はまわりの人の潜在的な力をどんどん引き出していくんです。

利他ってなんだろう、と思います。障害という観点で考えれば、彼女はサポートしてもらって、助けてもらっている側にはちがいない、でも彼女と関わった人が自分でもびっくりするほどの自分を感じる。

「何かして」ではなく、「ぼーっと」することで、周りの人に居場所を与えていると書いています。

「これして」、「あれして」ではなく、ぼーっとすることで、逆に世話する人が「何かしなくては?」、「何かしてあげられるのでは?」と考え、実行することによって自分もまた嬉しさがこみ上げ、居場所がで

きる。

なんとも素晴らしい空間だなーと感じます。

とても忙しい時代です。少し一息ついてぼーっとして、お互いが、「何かをしてあげたいな」という空間が生まれる社会になるといいですね。

いつも良い意味で「ぼーっと」そこに在る御本尊様、位牌のご先祖様に手を合わせて、そこにも私たちの居場所が出来たら最高だなと思います。



行事のご案内

「春彼岸会・正御影供」

三月二十日 午前十時

於 津別町福王寺

三月十七日 午前十時

於 北見別院

「春のお彼岸」、「弘法大師正御影供」のお参りです。お大師様、ご先祖様への感謝を込め、皆様の幸せを祈りましょう。



維持費納入のお願い

毎年三月のお彼岸の案内とご一緒に、お寺の維持費のお願いをしております。

お寺の運営は、皆様の維持費、また会場の使用料によるところであります。

別紙の会計書の通り、皆様の維持費はお寺の運営の為に使わせて頂いております。

納骨の管理費も含まれておりますので、ご理解を頂き、一万五千元以上、お納めいただきますようお願い申し上げます。

地方の方には振り込み用紙を同封させて頂いておりますので、協力頂けましたら幸いです。

いす。世話人さんがおりますところは、帳簿に会計書がついておりますので、ご確認ください。

寺院 活動報告

節分 星まつり ご祈祷



たくさんのお参りを頂きました。檀信徒問わず、厄年でなくてもお参りください。合掌

高野山参拝

今年は弘法大師がお生まれになって、2500年になります。記念すべき年にあたり四国の八十八ヶ所巡礼を企画致しましたが思うように人数が集まらず、中止することになりました。そこで6月14日から二泊三日ほどで、高野山と奈良への参拝旅行を計画致します。別紙をご参照頂き、是非お誘い合って、ご参加ご参拝ください。



福王寺百周年記念事業

令和9年に福王寺は百周年を迎えます。

曾祖父、憲雄和尚が津別に昭和3年に来られ福王寺の基礎を気付かれてから、百年。小さな本堂からスタートし、土地や様々な寄付、皆様の祈りとお力添えで、本当に素晴らしい場所になりました。



この記念すべき年にあたり、総代一同、今後百年も福王寺が存続し、繁栄し、仏様、ご先祖様を祈る場所として、人々に癒しを与える場所として、またこれまでの先人に感謝を込めて、各種事業を執行する事を役員会に提案し、二月十二日に承認され、福王寺百周年記念実行委員会が設立されました。

皆様のご協力なしには達成できない事業で、ご協力をお願いすることになります。主な事業としては、記念法会、修繕事業、整備事業です。

津別も人口減少となり、お寺の在り方も問われる時代ですが、祈りの場所として、亡き人と心通わす場所として、私たちもお

寺を次世代へ残していくために精進していきたいと思えます。

詳しくは、後日委員会よりご案内がありますので、その際は何卒、ご検討、ご理解ご協力の程宜しく願います。

合掌

